

「まちかどミーティング(地域巡回)」概要 (杉ホールひびき)

日時・場所 平成 21 年 7 月 31 日(金) 午後 7 時～ 8 時 40 分 杉ホールひびき
市民参加者数 33 人
市側出席者 市長・企画部長・総合政策課長・地域情報課長・同課広報広聴係長・同課情報化推進係主査・二ツ井地域局長・同局市民福祉課長補佐・財政課財政係主査

市長市政報告 (19:00～19:42) ・「協働のまちづくり」と総合計画「“わ”のまち能代」の意義
・「リサイクルポート」と「県北エコタウン構想」
・「バイオスタウン構想」と「農業政策」
・市役所変革における「笑顔」と「あいさつ」・「感謝と思いやり」

市民との対話 (19:35～20:40) Q 仁鮎は平成 19 年と今年の増水で、2 地区で内水を排水できずに被害を被った。大型ポンプを常設すれば、消防団等でもっと早い対応が可能と思うが。
A 毎回、被害場所も決まっており、今回も国・県には要望している。しかし、国・県への要望数も多く、財政事情もあり、具体的なめどは立たない。今後も要望活動等に努力するので、協力を。
検討内容...現状は、国交省の大型移動式排水ポンプ車輦と消防車輦での対応しかないが、市も改善点あれば必要な対策に努めたい。また、今後も国・県への要望を継続して働きかけたい。

Q 合併後、「良かった」との声がほとんど聞こえない。メリットはあったのか？
A 「合併のメリット」は、なかなか見えないが、1 番大きいのは、国交付金算定の「基準の割増」。市内の 2 小学校を新築できるのも合併したからこそ。二ツ井地区の上水道計画も、高額な事業費を要し、小さな町では難しかったのでは？ 今後も見える成果を示すよう努めるので、理解を。

Q 市役所庁舎の建設計画はあるのか？
A 合併特例債が使えるうちに対処したいが、全新築には積立てた基金が足りず、まだ未定だが、現在地で新築部分・再利用部分等、駐車場の配置も考え、二小も含めて考えたい。

Q 国では林野保全に予算措置をするようで、廃材等の発生が見込まれる。「木都能代」として、積極的に「木質バイオマス」に取り組むべきでは？ 民有林育成のためにもなる。市の考えは。
A 市では、一昨年「バイオスタウン構想」として林地残材利用の「バイオマス発電」に取り組んでいる。しかし、資材不足で稼働率が上がらず、最近 75～80% になった。今後、資材が増えれば、木高研等での様々な研究も進むと思う。また、廃植物油再利用の BDF 生産も全市に回収ステーションを設置し取り組んでいる。このような構想を持ち努力している。

検討内容...市バイオマス構想で想定する「木質バイオマス」の利活用は、精油抽出水質浄化濾剤 エタノール化 発電原料 だが、は新技術的な側面があり、研究機関の成果によるところが大きい。しかし「木質バイオマス」の利用推進には、効率的な林地残材の収集運搬方法を検討する必要がある、これは研究に左右されず、木質ペレット等様々な「木質バイオマス」の利用に応用でき、今後重点的に取組みたい。併せて新たな利活用として、木質ペレット利用やガス化発電についても検討したい。

Q 米代川左岸、切石採石場近くの道路の土砂崩れの現場が、1年以上放置されている。今後の復旧の見込みは？

A 放置ではなく、岩盤がもろいため、部分撤去では、また崩れる危険があり、対策を県と協議していた。今回の増水の周辺道路補修と併せて改修したい。

検討内容... 7月の道路被災箇所は、平成22年3月までに災害工事で復旧予定。土砂崩れ部分は、22年度県営治山事業での実施に向けて協議中。

Q 老人クラブ分裂問題は、双方当事者での解決が望ましいが、時間がかかるほど傷口が拡がり不幸なこと。市も早めの対策に努力をしてほしい。

A この問題は、様々な経緯と各々の思惑があり、市も調停案等示したが、拒否され協議のテーブルに付けないでいる。時間をかけて前進させたいが、これで、年次事業も止まることは避けたいので、問題と切り離して実施したい。

Q 仁鮎小が閉校となり、跡地活用を協議している中、備品公売が行われた。その経緯の説明を。

A それぞれ思い出が詰まった物と思うが、放置すれば傷み、利用可能な物の有効再利用と、財政の一助とで「備品公売」を実施した。

A まず、各学校に必要な物・残したい物を聞き除外し、その後各行政機関で必要な物も残した後、「不要」となった物を公売した。皆さんにその経緯が十分に伝わっていなかった点はお詫びする。

Q この校舎は、昭和時代に木造校舎のモデルとして「建造物顕彰」されたはず、それから、田代地区には天然秋田杉「水沢学術参考林」があり、全国から見学者が来る。廃校舎を「木工博物館」として再生したらと部落に提案したが、難しいだろうとなった。市長はどう考えるか。

A この街のキーワードは「水と木」と思う。校舎活用法も様々な案があると思う。例えば、天神小は川の側にあり、手作りクラブの拠点や釣りを絡めた活用ができないかと思うし、仁鮎は「成田為三」が学んだ地。「音楽」もキーワードとできないかとも思う。アイデアを出してほしい。参考とし、できるだけ早く方向を出したい。

A 仁鮎では、地域で校舎活用について「検討する会」を立ち上げる等協力していただき、ありがたい。市も、皆さんの希望に添うよう支援していきたい。今後も打ち合わせを密にして進めていきたいので協力をお願いしたい。

Q 荷上場体育館隣の「荷上場公民館」は、荷上場地区住民以外には貸していないと利用を拒否された。そうなのか？

A 「荷上場分館」は、従来、地区集会所的に使用され、地区以外の利用はほとんどなかった。今後は他からの申し込みにも対処する。

Q ニツ井町庁舎裏の「ニツ井中央公園」だが、利用者はあまりいないように見受けられる。今後活用法を考えてはいかがか？

A 「ニツ井中央公園」は、元々「避難所」としての性格もあったし、芝の養生ということでも積極的な活用はされていなかったが、今後検討したい。

検討内容... 各種イベントや市民の憩いの場として積極的に活用してほしい。